

令和元年度 町政懇談会開催報告①



昨年11月18日から11月29日までの6日間、町政懇談会を開催し、各会場には、仕事などで多忙にも関わらず、多くの町民の方にご参加いただきました。

『広報にいかっぶ』では、この町政懇談会で鳴海町長からどのような話があったのか、どのような意見交換がなされたかをご紹介します。

今月号では、町長が各会場で説明した、町の取り組みの要旨について紹介します。

①『国保診療所と町民の健康増進について』

平成30年8月から入院病床及び休日・夜間の救急外来患者さんの受入全面再開を果たしましたが、あくまでも当町における医療充実のための一つの方策の実行でありますので、今後の診療所の安定継続を図るためにも必要職員数の体制は維持しながら、医療提供サービスを低下させることなく、診療所運営に係る一般会計繰入金抑制努力を、町民の皆さまのご理解ご協力をいただきながら続けていきます。

医師の診療体制は、常勤医師3名と数名の出張応援医師の派

遣応援をいただきながら、入院患者さんの対応なども含めて万全な医師体制を整えていたが、外科・整形外科医師が残念ながらご本人の事情により、令和元年9月末をもって退職しています。

後任につきましては、なるべく早く着任していただける医師の確保に最大限の努力を続けています。

町民の健康増進対策は、生活習慣の改善につながる健診・各種予防事業を継続し、平成30年度は健（検）診負担の無料化を実施していますが、令和元年度は更に、生活習慣病予備群を把握するための特定健診の受診対象者を30歳に引き上げています。

妊娠・出産に係る支援は、これまで実施してきた「妊婦健診」に加え「産婦健診」を追加しており、産婦の健康状態・育児状況の確認と「産後うつ」の予防及び早期発見を目的に、健診費用の一部助成を行っています。

②『学校教育について』

学校教育の分野においては、幼児教育の推進として、安全安心に配慮しながら、教育・保育環境づくりの充実と小学校との連続性を意識したこども園運営

資格取得費用に対する助成制度なども用意していますので、これら事業のPRに努め、一人でも多くの後継者に親元就農していただくよう支援していきます。

⑥『防災対策について』

「土砂災害」、「洪水」、「地震・津波」などの避難判断に関する資料の作成と更新が急がれています。現在、準備、進行中の、北海道が実施する浄水場地先下流域の河道内の土砂掘削や河川沿いの流木、立木の除去事業や新冠川改修工事河道計画調査検討業務などの結果を踏まえ、厚別川水系の準用河川も含めた、さらなる対策について、関係機関と協議しながら取り進めていきます。

高波対策として、本町の海岸の嵩上げ工事は、平成29年度から着手し、令和元年度末までの補正工事を含め、約451mの工事を完了し、居住区域で66%の進捗となっておりますが、今後も汐見団地も含め、高波対策を継続実施するとしています。

⑦『JＲ日高線について』

交通モードのあり方について、管内7町の町長会議で1本化を図るべく議論を重ねてきた

を支援するとともに、小中学校では、「地域とともにある学校」への転換を図るために、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の導入と、小中一貫教育についての調査研究に対する支援に努めています。

③『観光施設について』

にいかっぶホロシリ乗馬クラブは、現在、開発局で進めています。日高自動車道のルート上にあることから、施設の移転先を西泊津のパークゴルフ場の隣接地の町有地内としており、現在、厩舎やクラブハウス、屋外馬場などの施設整備を行っています。



『にいかっぶホロシリ乗馬クラブ』移転先での施設整備の様子

ところであり、11月12日の町長会議で、日高線の代替となるバス路線について、今後、JＲ北海道と個別協議を正式に行うこととしたものです。

個別協議事項は、長距離や中・短距離の路線の充実、バス停の確保、鉄道用地の問題など多岐にわたりますが、持続性のある、より利便性が高い、住民の足としての広域交通の早期確立に向け、将来を見据えた交通体系を構築していくとともに、JＲ北海道からの支援などの協議を進め、JＲ北海道との最終的合意に向け取り組んでいきます。

海岸護岸の恒久復旧や予防護岸については、現状のJＲ北海道の財政状況では不可能な状態であり、早期な抜本的改善が求められていることから、北海道とも早期改善に向け要請していきます。

今月号では、町政懇談会で町長が各会場で説明した、町が取り組んでいる主な政策などについて掲載させていただきました。次号3月号では、各会場で出されました、主なご質問やご意見をご紹介します。

④『情報通信インフラ整備について』
地域から強い整備要望があったことや、町としても防災対策、定住・移住対策促進面から整備

工事期間は、令和元年度と令和2年度の2カ年計画で進め、移転先での乗馬クラブの営業開始は、令和2年度末を見込んでいます。
移転先一帯は、パークゴルフ場の隣接地であることや新冠温泉とも近く、両施設との相乗効果も期待できるものと考えています。
道の駅ゾーンは、新冠インターチェンジ開通も見据えた中で、道の駅への立ち寄り客の増加が見込まれますし、関係機関からもリニューアルを望む声が多くあります。

現有施設は、規模が小さくトイレとしての満足感も得られていないこと、レ・コード館第2駐車場は未舗装で、あまり活用されていないなどの改善点があり、新冠インターチェンジ開通により、日高地域への玄関口としての機能も持ち合せることから、施設の拡張や駐車場の再整備など、リニューアルの検討を進めていきたいと思っています。

⑤『産業振興について』

農業後継者対策は、平成30年度に制度化しました「農業後継者親元就農奨励金」について、これまでに2組の経営体から申請があったところです。
後継者には、農業機械の免許や